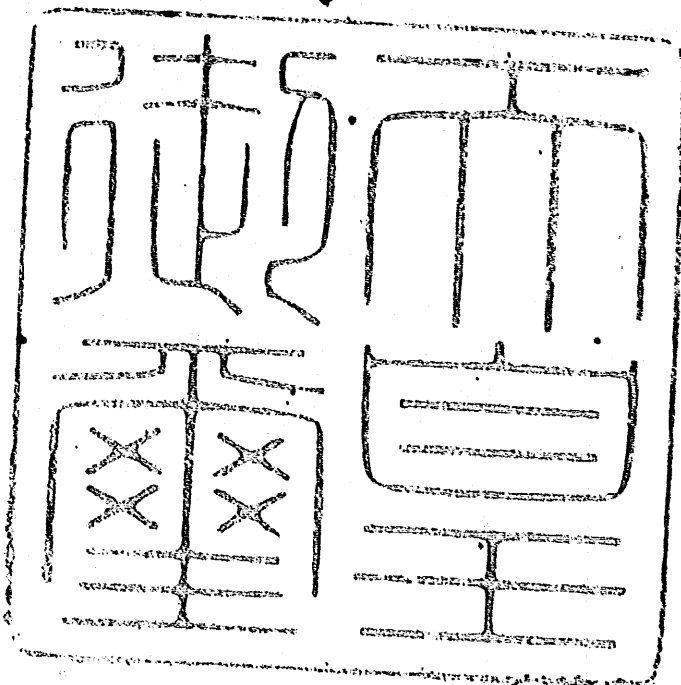


勅令第二百四十四号

朕韓國ニ於ケル犯罪即決令ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治四十二年十月十六日

内閣總理大臣侯爵桂 大正

勅令第二百四十號

韓國ニ於ケル犯罪即決令

第一條 統監府警視又ハ統監府警部ニ

シテ韓國ノ警察署長分署長タル職務
ヲ有スル者又ハ其ノ代理ヲ為ス者ハ

其ノ警察署又ハ分署ノ管轄区域内ニ

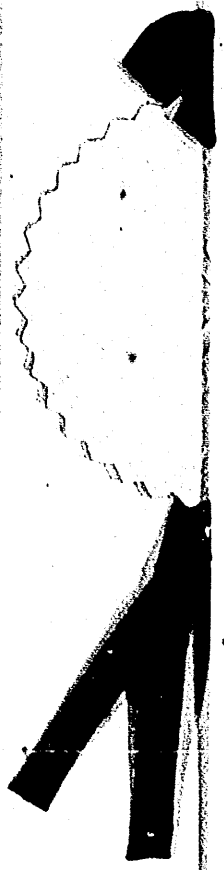
於ケル左ノ犯罪ヲ即決スルコトヲ得

一 拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ罪

二 韓國法規ニ依リ管刑拘留又ハ三

十圓以下ノ罰金ノ刑ニ處スヘキ罪

第二條 即決ハ正式ノ裁判ヲ用テ被
告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直ニ
具ノ言渡ヲ為スヘシ
被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ又ハ
之ヲ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ
其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其ノ住
居ニ送達スルコトヲ得
第三條 即決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ
服セサルトキハ管轄裁判所ニ正式ノ
裁判ヲ請求スルコトヲ得



第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即
決ノ言渡ヲ為シタル官署ニ申立書ヲ
差出スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項
ノ場合ニ於テハ言渡アリタル日ヨリ
三日、同條第二項ノ場合ニ於テハ送達
アリタル日ヨリ五日トス
前項ノ期間内ニ正式ノ裁判ヲ請求セ
サルトキハ即決ノ言渡ハ確定シタル
モノトス
第五條 前條ノ申立ヲ受ケタル官署ハ

速ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄
裁判所檢事ニ送致スヘシ

第六條 拘留ノ言渡ヲ為シタル場合ニ
於テ必要ト認ムルトキハ第四條ニ定
メタル期間内被告人ヲ留置スルコト
ヲ得但シ刑期ニ相當スル日數ヲ超ス
ルコトヲ得ス
料料又ハ罰金ノ言渡ヲ為シタルトキ
ハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若納メ
サルトキハ第四條ニ定メタル期間内

被告人ヲ留置スルコトヲ得

前項留置ノ期間ハ一圓ヲ一日ニ折算
シタル日數ヲ超ユルコトヲ得ス但シ
一圓未滿ノ端數ハ一日ニ折算ス

第七條 前條第一項ノ留置期間ハ拘留
ノ刑期ニ之ヲ通算シ同條第二項ノ留
置期間ハ其ノ折算シタル金額ヲ以テ
料料又ハ罰金ノ金額ニ算入ス

第八條 留置セラレタル者正式ノ裁判
ヲ請求シ呼出狀ノ送達アリタルトキ

ハ直ニ其ノ留置ヲ解クヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之
ヲ施行ス